

2022.12.29. 木曜礼拝 詩篇 73 篇の視点 Leitu 牧師

アロ〜ハ。この礼拝堂に居られる家族の皆さん、また、オンラインの皆さん、カルバリーチャペルカネオへによろこそ。J.D.牧師は、本当に必要な、取るべき休暇を過ごしています。彼が家族と祝福された時間を過ごし、必要な休息をとることができるようにお祈りください。J.D 牧師は 2023 年 1 月 8 日に説教壇に戻って来ます。日曜日は 8 時半と 10 時 45 分の 2 回礼拝があります。週半ばの聖書の学びは、木曜日の夜 7 時からです。では、神の御言葉に入りましょう。今夜の学びは、詩編 73 編です。始める前に祈り、御言葉の祝福を神に求めましょう。

天のお父さま、私たちは今夜あなたの御前に出て、この場所で今夜あなたがなさることのために、賛美と栄光をあなたに捧げます。主よ、あなたの真理に対して私たちの目、耳を開いてください。そうすれば、今夜あなたが私たちに語られたいことを聞くことができます、主よ。あなたの栄光の御言葉の内に、さらにイエスと似た者となれますように。あなたの御名によって祈ります。アーメン。

詩編 73 編は、私のお気に入りの箇所の一つです。今回のメッセージのタイトルは、「詩篇 73 篇の視点」です。カルバリーチャペルを始めたチャック牧師は、「歩み方」のカンファレンスで、詩編 73 編を共有しました。年に一度、この島で行われるカンファレンスでした。私はいつも参加し、祝福されました。グレッグ・ローリーやラウル・リースは、これらのカンファレンスで講演を行い、私は彼らから多くを学びました。当時、私は若いクリスチャンでした。この詩篇は、特に聖書に関連して、物事を適切に捉える視点について、私に語りかけたものでした。視点の定義とは何でしょうか？ その人の見方や一般的な姿勢のことです。特定の態度または何かを観察する方法。クリスチャンとして、私たちは皆、「なぜ悪人は栄えるのか」という疑問を持ったことがあるでしょう。さらに言えば、「なぜ正しい人が苦しむのか？」これには、新米信者の私もつまづきそうになりました。世俗的な繁栄を見たこともありました。彼らは祝福されていました。それなのに、彼らは神への愛がありませんでした。彼らは、神の事柄に関心を持たず、イエスに敬意を払っていませんでした。詩編 37 編 27 節と 28 節はこう語っています。

一詩編 37:27一

悪を離れて善を行え。いつまでも地に住め。

一詩編 37:28一

まことに主は義を愛し主にある敬虔な人をお見捨てにならない。彼らは永遠に保たれるが悪しき者どもの子孫は断ち切られる。

現実には、その逆が真実のように思われました。悪人が繁栄しているように見えました。神が聖徒を見捨てておられるように思えました。詩編 73 は、この葛藤を私たちに語っています。敬虔な苦悩が見えます。私たちは悪人たちの豊かさを見ますが、彼らは気ままに繁栄の中で浪費します。彼らは主を顧みません。主の命令は彼らの心の中にはありません。その心は絶えず、絶望的に邪悪です。この問題は、私たちの信仰、特に、厳しい試練に直面している聖徒たちを揺るがす可能性があります。これは、つまづき、クリスチャンが転ぶ原因にさえなります。特に、主を信じたばかりの人には。妬み、そねみ、欲望が心に入り込み、物事に対する間違った視点が入り込み、「神は本当に気にかけておられるのか？」「神は敬虔な者を顧みられないようだ」と。放っておくと、私たちの心はどこかに行ってしまいます。敵は、私たちが迷うことを望んでいます。私たちはその滑りやすい道を歩み始め、それが私たちの心を暗い場所に連れて行きかねません。詩篇 73 篇は、神に仕える人が書いたものです。彼の名はアサフです。レビ人で、イスラエルの祭司でした。アサフは 50 編と、73 篇から 83 篇の 12 の詩編を著しました。彼の名前は、人々を集

めるという意味です。カポノのように、彼は賛美リーダーでした。ダビデ王から賛美の指揮に任命されました。彼は人々を率いて音楽で神を礼拝しました。イスラエルの民を率いて、主への賛美を歌いました。ダビデが見事に歌ったように。アサフはドラムを叩くのが大好きな打楽器奏者でした。神の幕屋で礼拝を導いていました。幕屋とは巨大なテントでした。中には、契約の箱がありました。ソロモン神殿はまだ建てられていなかったの、神の祭司はまだ天幕の中で集まり、奉仕していました。また聖書には、アサフは霊的な洞察力を備えた先見者であったと記されています。先見者であったのに、アサフは盲目になってしまいました。悪しき者の最終的な結末を考えず、忘れてしまったことで目が曇ってしまいました。罪は私たちに盲目にします。嫉妬、ねたみ、貪欲に目をくらませます。罪は、私たちに間違った見方をさせ、物事の本質を見誤らせる原因となります。そうすると、苦いものが入り込んできて、思考が蝕まれてしまうことがあります。アサフが経験したことは、誰もが経験したことがあるはずです。私たちは皆、神に疑問を抱いたことがあります。なぜ悪人が栄えるのかを、誰も考えたことがあるでしょう。預言者エレミヤは、神に問いかけました。エレミヤが主を愛していたことを私たちは知っています。J.D 牧師はエレミヤ書をほとんど終えました。私たちはこの預言者を知り、愛するようになりました。神は彼を力強く用いられました。不満を言う資格があるとすれば、それはきっとエレミヤでした。神はイスラエルの民に警告するためにエレミヤを召されました。ユダヤ人は神の代表であるはずでした。世界を照らす光となるはずでした。しかし、彼らはより邪悪でした。エレミヤはユダヤ人であり、自分の民を愛していました。エレミヤは裁きが来ると彼らに警告しました。神のメッセージを伝えましたが、誰も耳を傾けませんでした。彼のメッセージは聞き入れられませんでした。エレミヤは 12 章 1 節と 2 節でこう語っています。

—エレミヤ 12:1—

「主よ。私があなたと論じても、あなたのほうが正しいのです。それでも、私はさばきについてあなたにお聞きしたいのです。なぜ、悪者の道が栄え、裏切りを働く者が、みな安らかなのですか。」

—エレミヤ 12:2—

あなたが彼らを植え、彼らは根を張り、伸びて実を結びました。あなたは、彼らの口には近いのですが、彼らの心の奥からは遠く離れておられます。

神は、このイスラエル国家を、とてつもなく祝福されました。しかし、エレミヤは彼らの状態に苦悩していました。彼らは同胞であり、彼らの心は神から遠く離れていました。詩篇 73 篇を続けるにあたり、エレミヤのようにアサフから学ぶことができることを祈ります。二人とも、主を愛しています。二人とも、神から与えられた使命に忠実でした。二人とも不満を言い、「主を愛する者たちがなぜ苦悩するのか」と神に問いかけました。「神を愛さない者がなぜ栄えるのか？」と。詩編 73 編 1 節はこう語っています。

—詩編 73:1—

まことに 神はいつくしみ深い。イスラエルに 心の清らかな人たちに。

アサフはまず、自分がいつも知っていることを書くことから始めます。神はイスラエルに良くしてください。イスラエルは神の御目のひとみです。申命記 32 章 9 節と 10 節には、次のように書かれています。

—申命記 32:9—

主は、測り縄で割り当て地を定められた。ご自分の民、ヤコブへのゆずりの地を。

—申命記 32:10—

主は荒野の地で、荒涼とした荒れ地で彼を見つけ、これを抱き、世話をし、ご自分の瞳のように守られた。

地球上のすべての人々の中から、神はユダヤ人をお選びになりました。9 節では「ヤコブ」と言及され、アブラハムの孫です。ヤコブは神と格闘したことを私たちは知っています。(創世記 32:24)

そして、彼の名前は変えられました。主は彼の名前をヤコブからイスラエルに変えられました。イスラエルとは、神と格闘することを意味し、こんにちのユダヤ人国家の名はイスラエルです。神はご自分の民を愛し、守っておられます。彼らは神の御目のひとみです。では、なぜ神はユダヤ人を選ばれたのでしょうか。申命記 7 章 7 節から 8 節にはこう書かれています。

一申命記 7:7一

主があなたがたを慕い、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多かったからではない。事実あなたがたは、あらゆる民のうちで最も数が少なかった。

一申命記 7:8一

しかし、主があなたがたを愛されたから、またあなたがたの父祖たちに誓った誓を守られたから、…

8 節の前半は、神の約束のことです。神はアブラハムに約束されました。アブラハムの信仰のゆえに、神は彼の子孫を祝福されます。アブラハムは、ユダヤ国家の父となりました。私たちの救い主であるイエス・キリストは、アブラハムの血筋からお生まれになりました。それが受肉というものです。神は人となりました。私たちはイエスの誕生をお祝いしたばかりです。イエスは完全に神であり、完全に人間であられました。人間としてのイエスはユダヤ人であられました。ユダヤ人の母マリアとの間にお生まれになりました。こうして、ユダヤ人に救いをもたらされたのです。異邦人のクリスチャンとして、私たちもまた、主から祝福されています。異邦人とは、ユダヤ人でない人のことです。神は常に異邦人が救われるための計画をお持ちでした。私たちもまた、神の御目のひとみであると思います。アブラハムの信仰は、すべての国々を祝福しました。すべての国々が救いによって祝福されます。創世記 12 章 3 節に書かれています。

一創世記 12:3一

わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」

旧約聖書の預言者イザヤは、異邦人の救いを預言しました。イザヤ書 49 章 6 節にこう書かれています。

一イザヤ 49:6一

主は言われる。「あなたがわたしのしもべであるのは、ヤコブの諸部族を立たせ、イスラエルのうちの残されている者たちを帰らせるという、小さなことのためだけではない。わたしはあなたを国々（異邦人）の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする。」

最初の信者はユダヤ人でした。しかし、神はユダヤ人と異邦人の両方に救いをもたらされました。まずユダヤ人、そして異邦人に。神はご自分のひとみであるイスラエルに良くしてくださいました。異邦人である私たちも、神が良いお方であることを証しすることができます。ある人々が考えるように、神はユダヤ人を見放されておられません。異邦人である私たちに対しても、まだ見放しておられません。私は救われる前、世俗的な生活を送っていました。私は神を知りませんでした。神はいつも私を養ってくださいました。神は、私が生きていくのに必要なものを与えてくださいました。家族は教会に行ったことはありませんでしたが、私は神を信じました。神は私を選ばれ、私は救われました。私はイエス・キリストを知ることができ、祝福されています。神の御言葉の中で成長することができ、祝福されています。また、神はユダヤ人に聖書をもたらされました。旧約聖書が彼らの元に届き、新約聖書も届きました。聖書は、私た

ちすべての人にとって、神の人生の指針です。これは、神の子どもたちである私たちへのラブレターでもあります。ダビデ王が詩篇で語ったように、神は良いお方で、いつも備えてくださるといことがわかります。ダビデ王は、詩篇 37 篇 25 節から 27 節にこう書いています。

一詩編 37:25一

若かった頃も年老いた今も私は見たことがない。正しい人が見捨てられることを。その子孫が食べ物を乞うことを。

一詩編 37:26一

その人はいつも情け深く 人に貸す。その子孫は祝福を受ける。

私は、神がいつも私に良くしてくださっていることを証しできますし、あなたもそうでしょう。神はいつも異邦人に良くしてくださっています。そう、神はイスラエルに良くしてくださいます。そのことに、私たちは永遠に感謝します。今夜、辛い思いをされている人もいます。もしかしたら、オンラインの皆さんもそうかもしれません。人生は思い通りにならないものです。あなたは神の素晴らしさが見えていないかもしれません。神の御言葉によって励まされることを祈ります。ダビデ王は、詩篇 27 篇 13 節と 14 節でこう語っています。

一詩編 27:13一

もしも 私が 生ける者の地で主のいつくしみを見ると信じていなかったなら一。

一詩編 27:14一

待ち望め 主を。雄々しくあれ。心を強くせよ。待ち望め 主を。

あなたの必要性が肉体的なものであれ、霊的なものであれ。主があなたのために速やかに働かれ、回復と癒しをもたらしてくださるよう祈ります。主が遅らせられるなら、あなたのために忍耐を祈ります。ダビデのように、雄々しくあり、主を待ち望んでください。詩編 73 編 1 節にも、神は心の清い者に良くしてくださると書かれています。神はどんな心にも目を向けられ、探られます。第二歴代誌 16 章 9 節も私のお気に入りの一つです。

一II歴代誌 16:9一

主はその御目をもって全地を隅々まで見渡し、その心をご自分と全く一つになっている人々に御力を現してくださるのです。

心の清い人とは、神を愛し、常に神を喜ばせたいと願い、その思いを神の事柄にとどめ、主に献身している人のことです。イエスは私たちの心がどこにあるかを見ておられます。ジョン・フィリップスが解説で書いている例えが大好きです。

「中世の修道士たちは、世の中の腐敗から逃れるために、人里離れた寂しい場所に修道院を建てることが多くありました。厳格な、厳しい掟に支配されていました。彼らの聖さへの願いは、始まる前から失敗に終わる運命にありました。なぜか？ 修道士が自分達の汚れた心を持っていったからです。この修道士たちは、邪悪な世界から逃げようとしてしました。清い心を育てようとしたのです。しかし、自分の罪の性質から逃れることはできませんでした。」

私たちは誰一人として、罪から解放されることはありません。聖書は、私たちは皆、罪を犯し、不完全であると語っています。天国のこちら側では、誰もが常に自分自身と格闘しています。私たちは皆、清い心に憧れます。詩編 51 編 10 節と 11 節でダビデが語っています。私はこれが大好きです。なぜなら、それは聖霊が今夜ここにおられることを示しているからです。アーメン。

詩編 51 編 10 節と 11 節にこう書かれています。

—詩編 51:10—

神よ 私にきよい心を造り揺るがない霊を私のうちに新しくしてください。

—詩編 51:11—

私を あなたの御前から投げ捨てずあなたの聖なる御霊を私から取り去らないでください。

心の清さは、神から離れては不可能です。新しく生まれ変わった皆さん、私たちは義人ではありません。私たちの正しさのためではなく、私たちがイエスを呼び求めたからです。私たちは、イエスに信頼と信仰を置きました。主は私たちに、主の義を授けてくださいました。聖霊が私たちの内に入って来て下さり、私たちを封印されます。ですから今、私たちは神のものです。主は聖化という働きを始められます。私たちをこの世から切り離されます。私たちをもっと、もっとイエスに似た者にしていくことを始められます。第二コリント人への手紙 3 章 18 節には、こう書かれています。

—II コリント 3:18—

私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。

これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。栄光から栄光へと、神が私たちを変えてくださる過程です。私たちを磨く作業をしてくださっています。私たちは、明日も今日と同じクリスチャンではありません。神は、私たちが神と共に歩む中で、私たちを栄光あるものとしてくださっています。神は私たちを清めてくださっています。中には、この変化のプロセスに時間がかかる人もいます。(レイトウ牧師：挙手)
山上の垂訓でイエスはこう語っておられます。

—マタイ 5:8—

心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るからです。

神がきよい心を探されたとき、アブラムをご覧になりました。アブラハムではなく、アブラムです。神はアブラムの心をご覧になり、立ち上がって動き出し、出て行くようにと召されました。アブラムは立ち上がり、従いました。アブラムは信仰によって、神を信じました。神は彼の名前をアブラハムと変えられました。聖霊が入ってこられ、彼の心の中を清める働きをし始められたのです。第一コリント人への手紙 2 章 9 節には、こう書かれています。

—I コリント 2:9—

しかし、このことは、「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心に思い浮かんだことがないものを、神は、神を愛する者たちに備えてくださった」と書いてあるとおりでした。

この箇所は、天国での永遠が約束されていることを指しています。しかし、それだけではありません。アブラハムは、自分の信仰がどのような影響を及ぼすのか、まったく想像が付きませんでした。それは世界や、今日この場所に座っている私たちにどのような影響を与えるのでしょうか。アブラハムは、清い心を持った人の模範となる人物です。聖書は、第一コリント人への手紙 13 章 13 節にこう記しています。

—I コリント 13:13—

こういうわけで、いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら三つです。その中で一番すぐれているのは愛です。

清い心を持つ人は、その人の愛し方、人との接し方、特にキリストにある兄弟姉妹への接し方を見ればわかります。行動で示す愛です。しかし、それ以上にアブラハムの神への愛は大きかったのです。主はアブ

ラハムの清い心を見ておられたので、神はいつもアブラハムに良くしてくださいました。アブラハムは祝福された人生を生きました。詩編 73 編 2 節と 3 節です。

—詩編 73:2—

けれどもこの私は 足がつかずきそうに私の歩みは滑りかけた。

—詩編 73:3—

それは 私が悪しき者が栄えるのを見て誇り高ぶる者をねたんだからだ。

妬みとは、誰かが持っているものを欲しがることです。不幸や苦悩の結果、所有物や財産、成功に至ることもあります。聖書には、嫉妬は肉の行為であり、罪の結果であると書かれています。利己主義と欲は友情を破壊します。それは自己中心的であり、混乱をもたらします。それは神からのものではなく、悪です。ヤコブ 3 章 14 節から 16 節には、こう書かれています。

—ヤコブ 3:14—

しかし、もしあなたがたの心の中に、苦々しいねたみや利己的な思いがあるなら、自慢したり、真理に逆らって偽ったりするのはやめなさい。

—ヤコブ 3:15—

そのような知恵は上から来たものではなく、地上のもの、肉的で悪魔的なものです。

—ヤコブ 3:16—

ねたみや利己的な思いがあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行いがあるからです。

ねたみについて見てみましょう。ねたみとは、相手に敵意を抱くことです。自分がないものを持っている人に。自分より優位に立つライバルに。ねたみは肉の実であるとガラテヤ 5 章 21 節にあります。「愛の敵」だと第一コリント 13 章 4 節にあります。「傲慢の現れ」だと第一テモテ 6 章 4 節にあります。「争いの原因」だとヤコブ 3 章 16 節にあります。「不信者の証」だとローマ 1 章 29 節にあります。クリスチャンの嫉妬やねたみの原因は何でしょうか？ それは、神の御言葉を知らないことからくることもあります。神の御言葉を無視した結果である可能性があります。あるいは、私たちに対する神の備えに信頼することができなかったということです。多くの場合、私たちの人生に対する神のご計画を信頼していないのです。結局のところ、私たちの罪の性質から来るものです。創世記 50 章 20 節にこう書かれています。

—創世記 50:20—

あなたがたは私に悪を謀りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとしてくださいました。それは今日のように、多くの人が生かされるためだったのです。

ヨセフの兄たちの嫉妬を思い出します。私たちは、それがヨセフの益になったことを知っています。神のご計画は達成されました。兄たちは恥をかかされました。ヨセフは兄弟たちから多くの苦しみを経験しました。嫉妬が彼を苦しめました。不正は何年も続きました。不当な扱いを受けましたが、神はヨセフを守られました。クリスチャンは罪を犯すことがあります。私たちは、神の祝福を他者に求めます。そして、嫉妬が忍び込みます。私たちは、神の私たちに対する祝福を忘れてしまい、主が私たちの人生に特別な使命を持っておられることを忘れてしまいます。私たち一人一人にぴったりと合った使命です。私たちは、神にはご計画があることを忘れてしまいます。私たちは、主がご自分の栄光と益のためにすべてのことを働かせておられることを忘れてしまいます。世と同じように、欲しいものを手に入れるために戦います。ヤコブは、ヤコブ書 4 章 1 節と 2 節で私たちのためにこのことを説明しています。

—ヤコブ 4:1—

あなたがたの間の戦いや争いは、どこから出てくるのでしょうか。ここから、すなわち、あなたがたのからだの中で戦う欲望から出て来るものではありません。

—ヤコブ 1:2—

あなたがたは、欲しても自分のものにならないと、人殺しをします。熱望しても手に入れることができな
いと、争ったり戦ったりします。自分のものにならないのは、あなたがたが求めないからです。

アサフは「足がつまづきそうだ」と書いており、彼はつまづきました。彼は神を信じない者をねたみ、嫉妬しました。彼は目を向け、見てしまい、罪が入り込みました。彼の心と思いがその土台から滑り落ちて
しまいました。アサフは、富、豊かさ、繁栄を見ました。彼は、他の人が持っているものを見て、自分が
持っているものを忘れてしまいました。彼が人生で楽しんだ多くの祝福を。彼は祭司として幕屋で神に
仕える特権がありました。彼は知名度もあり、尊敬されていました。彼は指導者であり、音楽の教師でも
ありました。才能があり、賜物が与えられていました。箴言 23 章 17 節にこうあります。

—箴言 23:17—

心のうちで罪人を羨んではならない。いつも、ただ主を恐れていよ。

良いねたみもあります。それは、神が子どもである私たちに抱かれるねたみです。神は、神以外のどんな
関係も私たちが傷つける可能性があることを知っておられます。偶像礼拝は、私たちが神から遠ざけて
しまいます。そして、私たちは世界を追い求め始めます。しかし、ねたみや嫉妬は、私たちが傷つけるこ
とを忘れないでください。代わりにイエスに焦点を置くべきです。私たちは、他の人たち、特にキリスト
にある兄弟に対して、熱心であるべきで、嫉妬すべきではありません。続けて、詩編 73 編には、次のよ
うに書かれています。

—詩編 73:4—

実に 彼らの死には苦痛がなく彼らのからだは肥えている。

アサフは「苦痛」という言葉を使っています。出産の時の痛みと同じ言葉です。悪人には痛みがないよう
だ、とアサフは考えます。死んでも苦しみません。でも、私たちはよく知っています。悪人の話をすれば、
彼らは人生で苦難を味わったかもしれないし、そうでないかもしれません。しかし、私たちは救われな
かった者の最後を知っています。地獄は人気のない場所です。地獄は、私たちの文化ではあまり語られるこ
とのないテーマです。しかし、実在する場所です。天国も同じです。詩編 73 編 5 節から 9 節にはこう書
かれています。

—詩編 73:5—

人が苦勞するときに 彼らはそうではなくほかの人のように 打たれることもない。

—詩編 73:6—

それゆえ 高慢が彼らの首飾りとなり暴虐の衣が彼らをおおっている。

—詩編 73:7—

彼らの目は脂肪でふくらみ心の思い描くものがあふれ出る。

—詩編 73:8—

彼らは嘲り 悪意をもって語り高い所から虐げを言う。

—詩編 73:9—

彼らは口を天に据えその舌は地を歩き巡る。

この前の節から、いくつかの言葉を引用しました。所有物を自慢すること、嘲り、残酷なこと、悪口を言

うこと、気取って、馬鹿にすること。共通するのは「プライド」です。間違った視点は、間違った思い込みを助長します。クリスチャンにとって、それはつまずきになる可能性があります。視点を間違えると、道を踏み外しかねません。本当は、誰にでも悩みはあります。悪しき者にも正しい者にも。悪しき者の人生は、とても魅力的に見えるものです。これ以上ないほどの真実です。アサフの心はより深く降りていきます。お金持ちは、必ずしも居心地がいいわけではありません。お金持ちはたいてい、イエスに興味がありません。そのため、彼らの時間の多くは富を築くことに費やされます。多くの時間を、大切な人と離れて過ごすことになります。経済的利益が上がるとともに、その対価として金銭的利益があります。人間関係で悩む可能性が高まります。クリスチャンは、キリストにある豊かさを知っています。たくさんは無いかもしれませんが。私たちには豊かさがあるかもしれないし、まったくないかもしれません。私たちの喜びは、物質的な豊かさの上に築かれるものではありません。それはイエスのおかげです。アーメン？

お金持ちは、人生の真の豊かさを見失っています。悪人は自分の罪のために罪悪感を抱えています。彼らは裁きの日を聞いています。彼らが信じようと信じまいと、それは自分たちのところにやってきます。彼らは聖書を知らないかもしれません。良心はあります。神は、私たちに善悪を知るための良心を与えてくださいました。ローマ人への手紙 2 章 14 節から 16 節にこう書かれています。

—ローマ 2:14—

律法を持たない異邦人が、生まれつきのままで律法の命じることを行う場合は、律法を待たなくても、彼ら自身が自分に対する律法なのです。

—ローマ 2:15—

彼らは、律法の命じる行いが自分の心に記されていることを示しています。彼らの良心も証ししていて、彼らの心の思いは互いに攻め合ったり、また弁明し合ったりさえするのです。

—ローマ 2:16—

私の福音によれば、神のさばきは、神がキリスト・イエスによって、人々の隠された事柄をさばかれるその日に行われるのです。

16 節は、来たるべき裁きのメッセージを強く打ち出しています。彼らは嘲笑し、自慢し、表立って悪口を言うことができますが、彼らの良心はその罪を思い起こさせます。私は 23 年間、イエスとともに歩んできました。イエスは私を驚かせながら、毎日私の心を揺さぶり続けられます。というのも、私は 23 年前、アルコール依存症だったからです。18 歳で大量に飲み始めました。45 歳で救われるまで、やめられませんでした。私は今、23 年間アルコールと無縁です。それは十分祝福されたことでした。妻のジーニーに聞いてみてください。神は私を祝福し、私の人生をそれ以上に祝福してくださいました。私の良心は、神が存在することを教えてくれました。23 年前、それまで教会に行ったこともない私が、イエスを呼び求めました。私の叫びを聞かれ、神はコリン・カーターという人送ってくださいました。私は、彼が話してくれた福音に「はい」と答えました。今、私が安らげるのは、イエスが私を救ってくださったからです。皆さんと同じように、私も主を心から愛しています。私はただ、主が用意してくださっているものにすがっているだけです。誰にも明日が約束されていないことは分かっています。私たちは墮落した世界に生きています。将来がどうなるか分かりません。しかし、私は私の未来を握っておられる方を知っています。悪しき者は、高慢に語ります。彼らは神に逆らって語ります。今日、彼らは安らかな時を過ごしているかもしれませんが、その日は来るのです。もう休まることはないでしょう。詩編 73 編 10 節から 11 節にこう書かれています。

一詩編 73:10一

それゆえ この民はここに帰り豊かな水は彼らに汲み尽くされる。

一詩編 73:11一

そして 彼らは言う。「どうして神が知るだろうか。いと高き方に知識があるだろうか。」

間違った視点は、神を疑う原因となります。人々はその嘘を信じ始めます。人々は神に不信感を抱くようになります。人々は、神は不正に目をつぶっておられるのだと思い始めます。神の善意を疑うようにさえなります。しかし、神は全知全能です。つまり、神はすべてを知っておられます。神がご存じないことは何もありません。実際、神はご自分の完璧な計画に合うように、世界の出来事を転換させておられます。特に、御言葉や御言葉の神を知らない人は、簡単に混乱します。しかし、他人を迫害したり中傷したりするのは、また別の話です。神を冒涇するのは良くないことです。冒涇とは、神を侮辱し、悪口を言うことで、神を非常に軽んじることです。詩編 73 編 12 節から 14 節にこう書かれています。

一詩編 73:12一

見よ これが悪しき者。彼らはいつまでも安らかで富を増している。

一詩編 73:13一

ただ空しく 私は自分の心を清め手を洗って 自分を汚れなしとした。

一詩編 73:14一

私は 休みなく打たれ朝ごとに懲らしめを受けた。

アサフは自分がかわいそうだと思い始めます。「私はずっと良い子でいたのに。私は何を得たのか？ しばらくは自由気ままに歩むのも楽しいかもしれない。彼らはとても楽しそうにしている。」世俗的な生活スタイルは、アサフにとってとても魅力的に映ります。サタンは前進しています。アサフは、神から離れた人生も、祝福された人生になりうるのだという嘘の父からの嘘を信じ始めます。アサフは幕屋に仕える家系の出身です。彼は生まれたときからその仕事のために備えられてきました。それが彼の知る唯一の人生です。それが彼の知る唯一の仕事です。アサフが考えていたことは、以前にも考えていたことです。彼はイライラして混乱しています。多くの責任を負って召されたことに満足していません。彼は一日中、罪の問題、罪の問題を抱えた人々と向き合っています。仕事が苦になったのかもしれませんが。もしかしたら、特権ではなく、義務になったのかもしれませんが。人々に仕える仕事に疲れてしまったのかもしれませんが若い頃からずっとやっています。私は日曜学校で教えていたので、教会に来るのが嫌な子どもたちを見たことがあります。大きくなるとすぐに、彼らは教会から離れました。私は長年、多くの親御さんとともに、子どもたちが主のもとに帰ってくるように祈りました。また、疲弊しているミニストリーの友人たちと共に祈ったこともあります。ミニストリーは簡単ではありません。大変な仕事です。多くの人に愛される素晴らしい仕事です。カルバリーチャペルのスタッフや牧師は、人々を助けることが大好きです。私たちは、誰にでも手助けができるように待機しています。アサフはそんな奉仕者でしたが、癒しが必要でした。詩編 73 編 15 節から 16 節にこう書かれています。

一詩編 73:15一

もしも私が「このままを語ろう」と言っていたならきっと私は あなたの子らの世代を裏切っていたことだろう。

一詩編 73:16一

私は このことを理解しようとしたがそれは 私の目には苦役であった。

信者である私たちは、自分の心の内をうまく隠します。本当に親しい人とは共有しません。アサフは自分の思いをあえて語りません。人々はアサフをどう思ったのでしょうか。その多くは、一緒に仕えていた彼の家族でした。彼は賛美リーダーであり、祭司です。そして、彼は神の神殿、幕屋で奉仕しています。だから、本心を隠しています。彼は倒れる寸前まで来ていたはずですが。主よ、感謝します。アサフは慣れ親しんだ場所に戻りました。詩編 73 編 17 節から 20 節にこう書かれています。

—詩編 73:17—

ついに私は 神の聖所に入って彼らの最期を悟った。

—詩編 73:18—

まことに あなたは彼らを滑りやすい所に置き彼らを滅びに突き落とされます。

—詩編 73:19—

ああ 彼らは瞬く間に滅ぼされ突然の恐怖で 滅ぼし尽くされます。

—詩編 73:20—

目覚めの夢のように 主よあなたが目を覚ますとき彼らの姿を蔑まれます。

聖所とは、幕屋のことです。会見の天幕でした。ヘブル語の「幕屋」は「ミツカン」で、住まいのことです。契約の箱は、至聖所に保管されました。ヤハウエに犠牲を捧げる場所でした。そこは神がご自分の民と会われる場所でした。そこで主は、アサフの考えを正され、何と安心したことでしょう。もう、疑問に思って悩むことはありませんでした。彼の思考が盲目であることに、目が開かれました。きっと自分を叱責することもあったでしょう。「私はどうしてしまったんだ？ 悪しき者は最後には地獄に行くことを私は知っている。なぜ、罪深い人生が豊かになるとまで考えるのだろう。私はその滑りやすい道を進んで破滅していたかもしれない。」

J.D.牧師の造語で、私がいつも気に入っている言葉です。しばらく聞いていません。彼は、聖書の中の誰かについて、あるいは、彼が伝えようとしている描写について、このように話したのでしょうか。古くからの方は覚えていますよね。J.D. はアサフについてこう言ったでしょう。

「彼は臭い思考を持っていて、首から上の検査が必要だった。」

覚えている人は何人いますか？ もう一度言います。彼の思考は臭くて、首から上の検査が必要だった。アサフの思考は正しくありませんでした。検査が必要でした。そして、神の聖所で、偉大なる医師と出会ったのです。その聖所で、アサフは癒されました。こんにち、クリスチャンは神に直接つながることができます。私たちは、祈りの中で神に直接語りかけることができます。回復や癒しが必要なときは、ためらわないでください。いつでもどこでも祈ってください。神はあなたの声を聞くことを望んでおられます。教会は癒しの場として最適です。そこでの交わりから、神の御言葉が教えられています。信者は互いのために祈り、共にパンを食べます。ヘブル人への手紙 10 章 24 節と 25 節にこう書かれています。

—ヘブル 10:24—

また、愛と善行を促すために、互いに注意を払おうではありませんか。

—ヘブル 10:25—

ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。

神は私たちが教会にいることを望んでおられます。25 節には、「自分たちの集まりをやめたりせず」とあります。精巧に調整された時計のように、神は私たちが、神が召された働きをするために組み立てて

くださったのです。詩編 73 編 21 節と 22 節こう書かれています。

—詩編 73:21—

私の心が苦みに満ち私の内なる思いが突き刺されたとき

—詩編 73:22—

私は愚かで考えもなくあなたの前で 獣のようでした。

アサフは自分の無知と盲目を告白し、その心は苦くなりました。あまりの苦々しさに、正常な思考ができなくなりました。苦々しさにしがみつくのは良くありません。苦々しさや憎しみと共存するのは、心地よいことではありません。感情的に蝕まれることもあります。精神的な健康を蝕む可能性があります。それがアサフを病ませました。心の中ではボロボロでした。エペソ人への手紙 4 章 31 節と 32 節には、こう書かれています。

—エペソ 4:31—

無慈悲、憤り、怒り、怒号、ののしりなどを、一切の悪意とともに、すべて捨て去りなさい。

—エペソ 4:32—

互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。

敵意について言われています。敵意は、毒を飲んで相手が死ぬのを待つようなものです。もう一度言ってみましょう。敵意は、毒を飲んで相手が死ぬのを待つようなものです。もし、皆さんの心の中敵意があるのなら、オンラインの方でも、それを取り除いてもらうために神に助けを求めることを祈ります。代わりに、あなたの心に愛を注いでくださるよう求めてください。苦み（敵意）は酸っぱいですが、愛は甘いです。敵意は疎外させ、愛は団結させます。敵意は破壊をもたらし、愛は癒すことができます。詩編 73 編 23 節から 25 節にこう書いています。

—詩編 73:23—

しかし 私は絶えずあなたとともにいました。あなたは私の右の手をしっかりとつかんでくださいました。

—詩編 73:24—

あなたは 私を諭して導き後には栄光のうちに受け入れてくださいます。

—詩編 73:25—

あなたのほかに 天では私にだれがいるでしょう。地では 私はだれをも望みません。

神はアサフの事をすべてご存じでした。憐みと恵みにおいて、神は彼を赦されました。神は彼の人生とずっと共におられました。アサフの頬を涙が伝い、自分の愚かさを認めました。しかし、彼は神への大きな愛があることを認めます。彼は、この世のどんなものよりも主を愛しています。この礼拝堂にいる多くの人たち、そしてオンラインの皆さんも、同じように主への愛があることを私は知っています。私達もアサフの状態を経験したことがあるでしょう。私達は心から主を愛していますが、罪を犯します。そして告白し、主は何度も何度も赦してくださいます。私達の創造主であり、素晴らしい神の憐みです。

神の憐みによって、私達の罪を赦してくださいます。神の恵みによって、赦しの後に祝福を与えてくださいます。それは私の理解では難しいことです。私たちの恵みには、相応の憐れみが必要です。しかし、私たちの神はそういうお方です。最後に、詩編 73 編 26 節から 28 節です。

—詩編 73:26—

この身も心も尽き果てるでしょう。しかし 神は私の心の岩とこしえに 私が受ける割り当ての地。

—詩編 73:27—

見よ あなたから遠く離れている者は滅びます。あなたに背き 不実を行う者をあなたはみな滅ぼされます。

—詩編 73:28—

しかし 私にとって神のみそばにすることが 幸せです。私は 神である主を私の避け所としあなたのすべてのみわざを語り告げます。

アサフは、神が自分の避難所であることを認めています。アサフは悪しき者に何が起こるかを知っています。彼はただ、目を覚ます必要がありました。神はいつも彼に良くしてくださっています。使徒の働き 3章 19節に書かれています。

—使徒の働き 3:19—

ですから、悔い改めて神に立ち返りなさい。そうすれば、あなたがたの罪はぬぐい去られます。

—使徒の働き 3:20—

そうして、主の御前から回復の時に来て、…

この箇所は、文脈上、救いについて語られています。アサフに必要なものだったのかもしれませんが。

ニコデモが夜イエスのもとに来たように。(ヨハネ 3:2)

イエスはまず、「新しく生まれ変わる必要がある」と答えられました。詩編 73 編以前のアサフの心がどうであったか私たちには分かりませんが、神はご存じです。「悔い改め」は良い言葉です。この言葉が大好きです。方向転換する、進むべき方向を変えるという意味です。神から逃げるのをやめ、神に向かって走り出すことです。その時、必ず祝福があります。アサフは、自分の臭い考えから立ち直り、彼はリフレッシュして、元気を取り戻しました。新しいエネルギーを得たのです。彼は信頼をあるべきところに戻しています。彼は神の善良さについて世界に語りかけ、真の生ける神についての証を語ります。今年も年末を迎え、時間は限られています。今夜見たように、悪人には悪人の問題があります。彼らは人生の問題から免れるわけではありません。彼らにはイエスが必要です。私たちは、迷える者、悪しき者に手を差し伸べに行きましょう。家族、友人、同僚、隣人など、さまざまな人がいるかもしれません。イエスの心をもって、彼らに近づきましょう。裁く心で、周りを見渡すこともできますし、悪しき者を見て、心の中で「あり得ない」と言う事も出来ます。しかし、まさか自分が救われるとは、誰が想像したでしょうか。まさかあなたが救われるとは、誰が思ったでしょう。私たちは皆、自分の証を持っています。イエスは語っておられます。隣人として、福音を分かち合うことです。ルカ 10章 2節と 3節にはこう書かれています。

—ルカ 10:2—

そして彼らに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、ご自分の収穫のために働き手を送って下さるように祈りなさい。

—ルカ 10:3—

さあ、行きなさい。いいですか。わたしがあなたがたを遣わすのは、狼の中に子羊を送り出すようなものです。

単に迷っていて、理解できないだけかもしれませんが。彼らは救い主を必要としないほど良い人だと思っているのでしょうか。それとも、狼のような心を持っているのかもしれませんが。私達は皆、イエスが必要です。もし、あなたがここで見ていて、救われていないのなら、今夜は降参する良い機会です。第二コリン

ト人への手紙 5 章 17 節にはこう書かれています。

—II コリント 5:17—

ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古い者は過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

今、あなたは自分の人生にこれを望んでいると言っているかもしれませんが。神はあなたの人生にこれを望んでおられます。身体の不調に悩まされている方も多いと思います。あなたはずっと苦しんでいます。多くの人は、単に人生に悩んでいるに過ぎません。私達には癒しが必要です。私たちに必要な癒しは、救いであると申し上げたいのです。それはイエスからもたらされます。私たちは皆、イエスを必要とし、生まれ変わる必要があります。聖書のローマ人への手紙 3 章 23 節にこう書いています。

—ローマ 3:23—

すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、

ローマ人への手紙 6 章 23 節にはこうあります。

—ローマ 6:23—

罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

私たちの罪の結果は恐ろしいものです。イエスのいない死は、永遠の地獄です。しかし、神は脱出の道を用意されました。ヨハネの福音書 14 章 6 節でイエスは語っておられます。

—ヨハネ 14:6—

...「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。

「私は何をすればいいの?」と尋ねるかもしれません。ローマ人への手紙 10 章 13 節に書かれています。

—ローマ 10:13—

「主の御名を呼び求める者はみな救われる」

ただ、イエスを呼び求めてください。自分の言葉で、ただ真剣に。イエスが私達の救い主です。イエスを呼び、信じることは、永遠の祝福をもたらします。天国でイエスと永遠に共に住むことです。お立ちください。祈りましょう。

お父さま、今夜あなたの御前に出ます。あなたの御言葉に感謝します。あなたがねたみや嫉妬について教えて下さったことに感謝します。それはあなたの御心ではありません。あなたの愛は、平和、優しさ、理解です。私たちの周りにはいる、その状況に在るすべての人々を助けてください。私たちが生きていく上で出会うすべての人々を。主よ、自分自身ではなく、もっとあなたのようにならせてください。あなたが御子を遣わして下さったことに感謝します。私達は赦しを求めます。私たちの罪のために、あなたは十字架にかからなければなりません。そのために、主よ。本当にごめんなさい。イエスさま、ごめんなさい。私たちのために、あなたは多くの痛みを経験しなければなりません。

主よ、あなたが自ら望んで行かれたのは、御父に対する大きな愛であり、私達に対する大きな愛であったことを私たちは知っています。だから、主よ、私はあなたの御前に出て、あなたにふさわしいすべての賛美とすべての栄光を捧げます。そして聖霊が、私たち一人一人の中に聖化の業をなして下さっていることを感謝します、主よ。

主よ、私達を栄光から栄光へと変えてくださるよう、あなたを反映し、地域社会だけでなく、私たちの兄弟姉妹間でも、あなたを表せることを祈ります。このことをあなたのもとに委ねます。

主よ、御言葉の中でこのような時間を過ごせたことを感謝します。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7